

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和3年度第3回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和3年12月22日（水）午前10時から午前12時まで
- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
 - （1）委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、角田フミコ委員、菅原亨委員
松田正敏委員、伊藤秀司委員、佐々木義夫委員
 - （2）事務局 美里町長寿支援課 横山太一、菅井晶
美里町社会福祉協議会 永沼威雄、高橋ゆかり、青木真理
 - （3）その他 児玉 徹 氏（遠田商工会・庄司哲広委員の代理）
- 5 議題
 - （1）開 会
 - （2）会議録署名委員の選出
 - （3）報 告
 - ①いきいき百歳体操について
 - ②地域の支え合いモデル事業進捗状況について
 - ③暮らしのサポーター養成講座について
 - ④生活支援体制整備協議会啓発事業について
 - ⑤生活支援コーディネーターの活動について
 - （4）協議事項
 - ①生活支援について
 - ②見守りあいについて

6 会議の公開・非公開の別
公開

7 非公開の理由

8 傍聴人の人数
0人

9 会議の概要

- ・会議録署名委員の選出
角田フミコ委員、佐々木義夫委員

(1) 報告事項における詳細な意見

① いきいき百歳体操について事務局高橋より説明。
(特に意見無し)
② 地域の支え合いモデル事業進捗状況について事務局高橋より説明
(特に意見無し)
③ 暮らしのサポーター養成講座について事務局高橋より説明。
(特に意見無し)
④ 生活支援体制整備協議会啓発事業について事務局高橋より説明。
(特に意見無し)
⑤ 生活支援コーディネーターの活動について事務局高橋より説明。
(特に意見無し)

(2) 協議事項における詳細な意見

地域住民の日常生活における困りごと等について、意見交換を行った。

①生活支援について

<高齢者の暮らしの困りごとについて>

- ・買い物
- ・ごみ出し
- ・室内外の掃除
- ・雪かき
- ・草取り
- ・庭の手入れ

- ・建物の修理など
- ・暖房器具の使い方に苦労している。
- ・ストーブの灯油入れ
- ・家具の移動
- ・必要な情報を取得できない人がいる。
- ・必要書類の代筆が必要な人がいる。
- ・手続きの方法がわからない人がいる。
 - ⇒高齢者は新型コロナワクチン接種の予約がとても大変だった。何回電話しても繋がらず、やっと繋がったらずいぶん後の方の予約だったりした。
 - ⇒大事な書類等が届いても、何が何だか分からない高齢者が多い。
- ・入院してしまったが、近くに家族がいないので、出金や入院中の必要なものが買えない人がいる。

<移動について>

- ・夜の運転に自信がなくなった。
- ・買い物が大変な人がいる。
- ・通院が大変な人がいる。
- ・住民バスが平日しか走っていないので、週末に行きたいところへ行けない。
- ・お茶のみ会への送迎が必要な人がいる。
- ・コロナ以前より歩くのが大変になった。

<人とのつながり・趣味・生きがいについて>

- ・寂しさを感じている人がいる。
- ・話し相手や人と関われる場所がほしい。
- ・趣味がない人がいる。
 - ⇒人とつながるきっかけが少ない。
- ・生きがいがない。
- ・日中やることがない。
- ・話し相手がいない。
- ・近所の友達等がいなくなって、家にいても何もすることがない。
 - ⇒生きがい・楽しみ不足。

<地域の現状について>

- ・男性の孤独
- ・お茶のみ会がなくなった。
- ・役員（特に若い人）の担い手がいない。
- ・イベントへの協力者が減少してきている。

- ・集いに誘っても来ない人、会えない人がいる。
- ・支援の担い手が少ない。
- ・在宅介護の人手不足（家族・専門職）
- ・24時間の見守り体制が少ない。

<地域の目指す姿・ありたい姿について>

- ・困りごとを声に出してほしい。
 - ⇒今までは分からないことや困ったことがあると連絡をくれていた人が、物忘れが進行して判断ができなくなったようであり連絡がなくなった。
 - 「困っていることはない？」と聞いても、困っていることに気づいていない人も多く「困っていない」と言う。
- ・集まる機会や通える場があると良い。人とつながるきっかけや隣近所で集まれる仕組みがあると良い。
 - ⇒コロナ禍により集まる機会が減った。
 - ⇒高齢者が歩いて集会所等まで来られなくなっている。
- ・寂しさの軽減が必要。
- ・役割があると良い。
- ・助け合う地域を目指したい。
- ・趣味活動や社会参加の機会が多いと良い。
 - ⇒特に男性の定年退職後、女性に比べると人と交流する機会が減る人が多いのではないか。妻がいて地域とつながりがあるから、夫も地域とつながることができている人が多いと思う。仕事一筋で生活してきた人も多くいると思う。退職すると抜け殻のようになってしまう人も多いのではないか。

②見守りあいについて

<地域での見守り>

- ・隣近所との関係
 - ⇒お互い気に掛けあうことが大切である。
 - ⇒近所の方とチーム（4軒1チームのように）になっていると良いのでは。
- ・不安なことや困ったことがあったら、すぐ電話をかけられる相手がいるとよい。
- ・基本的には近所付き合いが大切。そこから情報を知ることができる。
- ・住民の見守りに対する意識が向上してきている。
- ・朝のごみ集積所での立ち話も見守りや情報交換になる。
- ・姿を見ないときは訪問できるとよい。
- ・訪問活動による声かけができるとよい。
- ・見守りの必要な人には個別に頼んでいる。
- ・見守りされるのを嫌がる人もいる。見守られる側の意識づけが必要。

⇒入院等で長期間不在にしていることもあり、電気がつかないと近所で心配して家族に連絡をしたりする。本人は何事もなく帰ってきたりする。

<介護事業所での見守り>

- ・ケアマネジャーやヘルパーが見守っている。
- ・ケアマネジャーと地域とのつながりがあるとよい。

<見守りの方法>

- ・行政区長の町広報配布時、JA等の広報紙配布時での見守り
⇒高齢の方だと耳が遠くてなかなか気づいてもらえない（出てきてもらえない）。
- ・コロナ禍で直接訪問が難しい。電話で様子を聞く。
- ・見守りと監視の違い。

<見守りの対象者>

- ・遠くの家族の理解
⇒急に入院や長期外泊した場合などに地域に伝えてもらえるとよい、家族の帰省時に挨拶など声掛けしてもらえるとよい。
- ・見守りを拒否する人がいる。
- ・対象者本人がメリットを感じる見守りとは？
- ・見守られていることが嫌だという人もいる。
- ・対象者が見守られていることを意識していない（周囲に知らせないで長期間不在にする場合などがある）。
- ・遠くの家族から、週1回様子を見に行ってほしいと言われることがある。

<見守りの協力者>

- ・協力者を探すのが大変。
- ・協力者の担い手が少ない。
- ・さりげない見守りが難しい。
- ・個人情報をごくまで共有して良いのか。

<その他>

- ・地域の関係者全体に見守りあいの意識づけが必要。
- ・孤独死を防止していけるとよい。

(3) その他

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業で作成した、美里町の健康課題をまとめた模造紙を見ながら意見交換を行った。

- ・自分でどのくらい弱っているかわからない。
- ・病院嫌いな人が多いのではないか。
- ・75歳以上の健診受診率が低い。
⇒もう健診に行かなくてもいい・病気を見つけられたくないという人もいる。

- ⇒年齢を重ねていくと、子どもは自立したし、もういいかなと思うこともある。
- ⇒病院で検査を受けている人も多いのではないか。
- ⇒病院に行っているから大丈夫だと思っている人も多いのではないか。
- ⇒足腰が弱ってしまい、歩いて健診会場まで行けない。
- ・ウォーキングができるような公園が美里町には少ないと思う。
 - ⇒歩く機会もないし、場所もない。
 - ⇒散歩できるような歩道も少ない。国道の歩道で散歩している人もいる。
 - ⇒南郷は堤防、農道を歩いている人もいる。
 - ⇒田尻、三本木、小野田などに行ってパークゴルフをしている。友人から誘われたことがきっかけだった。人とつながりがあれば活動しやすくなる。
 - ⇒南郷にウォーキングするコース（オルレ）を作ったようなので、活用できると良いのではないか。
- ・食事、運動について
 - ⇒お茶のみしながら漬物を食べたりしていると思う。
 - ⇒小牛田地区の人は朝から食事が豪華であると転入した人から言われた。朝から食事内容が多かったり、間食も豪華なものを食べたりしているため、メタボリックシンドロームに気をつけなければならないと勉強したことがある。
 - ⇒ご飯と漬物はセットである。漬物で塩分は多くなりやすい。
 - ⇒子供の肥満度が宮城県は高く、美里町はさらに県内でも肥満度が高い。
 - ⇒運動をしなければならないのでは。運動ができる施設が必要ではないか。
 - ⇒通学も子供が歩いている姿を見かけない。
 - ⇒子供が校庭で遊んでいる姿もあまり見ない。

(午前12時 終了)

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委 員 _____

委 員 _____